

ひたちの文化

- 2 エッセイ(112) ひたち若者かがやき会議
- 3 日立市文化少年団ご紹介 ⑥
- 3 日々を詠む(105) 短歌 榎村 奎子さん
- 4 My 仕事 (13) (株)常陸風月堂 藤田 浩一さん



- 5 ふるさと探訪パートII(86)
- デザインとの出会い③ 後藤 弘文さん 6
- 常陸国まつり歩き(8) 長江 慶治さん 7
- 〈新連載〉クラシックバレエの世界へ 8



「さくらロードレース」

撮影：森脇 道男さん（東町在住）

撮影場所：平和通り

日本人が桜に対して抱いてきた感情や思いには特別なものがある。古の時代から多くの文人が桜を詠んだ数々の素晴らしい和歌を遺してきた。明治時代の唱歌や現代のJポップでも桜をテーマに歌ったものは非常に多い。

これほどまでに桜が我々の心を揺さぶる由縁は何処にあるのか。一つは、桜の咲き方と人の生き様は重なる部分があるからだと思われる。寒く長い冬を耐えた花芽は暖かくなるにつれて膨らみ、やがてそこからつぼみが出てくる。開花してからも、三分咲き・五分咲きと段階的に咲いてゆく。そしてようやく満開を迎えたと思えば、瞬く間に散り始めてしまう。つぼみをつけてから満開、そして散り終えるまでの桜の移ろいに人の生き死にを重ねてしまふ人も多いのではないか。そこには平安文学から思いつくものものは「が体現されている。

また、桜の開花時期が年度の切替わりに差し掛かっていることも大きいと思う。入学や卒業、就職といった人生の節目となる行事は殆どが三月末から四月頭にかけて行われる。幼い頃から満開の桜を横目にしながら卒園式や入学式に参列しているためか、「桜は出会いと別れの象徴」というある種刷り込みにも近い意識付けがされているのではないだろうか。

新年度を迎え、それまでの環境に別れを告げ新たな場での出会いを待つ新一年生や新社会人も多いことだろう。目の前の道のりを踏み出して、いつか花開くその時へ向かって突き進んでほしいと願わずにはいられない。



会のイメージマーク

令和3年7月に設立された本団体は、3期目を終えました。私たちが目指すまちの姿は、「かがやく若者であふれるひたち」。設立前に市民二千人の方とこれからの日立市のあるべき姿について話し合い、「ひたち若者ががやきプラン」という指針を作成。その中では、「特別なことを実現するだけでなく、自分らしくいられること」を、「かがやく」と定義しています。こうしたかがやく瞬間を、まずは私たちコアメンバー自身が感じ、その上で若者の皆さんにも感じてもらいたい

エッセイ 112

かがやく若者を見つけ、巻き込む、3年間の軌跡

ひたち若者ががやき会議



ひたち若者ががやき会議

令和3年7月7日設立。ひたち若者ががやきプランの目指すべき姿「かがやく若者であふれるひたち」に近づくための一歩として設立された若者主体の組織。まちづくりや魅力づくり、地域課題解決、関係人口創出等に対する取組を若者の自由なアイデアで実践している。

…そんな想いで、令和5年度は「場づくり」と「発信」を中心に進めてきました。

【場づくりプロジェクト】

若者がイキイキ・ワクワク活動し続けられるための場について思考しています。年に2回、日立市の未来について話し合う『若者会議全体会』では、改めて場を持つことの重要性を感じさせられます。

令和5年度は、茨城大学日立キャンパス・茨城キリスト教大学を会場に開催しました。特に、茨城大学で開催した全体会では、10年来にわたって県内の他

地域でまちづくりを進めている方からご提言をいただきながら、「日立市に想いのある人をどのように探し、つながり、大きくしていく?」「人々を巻き込む・つなげるための効果的な発信/コミュニケーション方法って?」という本質的な議論を行いました。まちづくり先進地の視察や、日立市内のフィールドワークも交えながら、現在も様々な角度から検討中です。

【発信プロジェクト・HiTAC HEER(ヒタチアール)】

日立市の魅力を「再編集」して発信する、発信プロジェクト。プロジェクト名は「日立」と応援を意味する「チア」を掛け合わせた造語です。日立市内に点在する「発信してみたい!」と思っている若者を集めて、クリエイター講座を開催。講座受講生から選抜した市民クリエイターを含む8名で若者目線の魅力を発信するサイト「HiTAC HEER」を運営中です。令和5年度はご要



若者会議全体会

望の多かった「縦型動画」を題材に、令和6年の活動を動画の発信を通して充実させたいと思う日立市在住・在勤の12名に参加いただきながら、TikTokをはじめとした制作プロセスや効果的な活用方法までを一緒に学んでいきました。

また、単発ながらも大規模かつご好評だったイベントもあります。日立市の自然を満喫できる「奥日立きららの里」を会場に、ご自慢のワンちゃんと一緒に楽しめる『ひたちドッグフェスティバル』は、市内外から千五百名超の参加をいただきました。大学生を対象に日立市の魅力を伝え、日立市での暮らしを考えるツアー『ひたちの暮らしがみえる旅』では、首都圏中心に22名の大学生・大学院生に農業や市内で水揚げされた魚の調理などを体験していただきました。

さらに、市内企業・団体への出前講座のご依頼をいただくこともあり、「コアメンバー自らの学びが、社会とつながっている・貢献していることを体感し、キャリア観を深められる機会」になっています。

3期目の活動を通して率直に



ひたちドッグフェスティバル

感じたことは、「まちのためとか、社会のためではなく、「自分のため」自己実現の手段」としてプロジェクトに関わっている人が複数いると、その組織の熱量は保ち続けられる」ということでした。残念ながら、綺麗事だけではまちづくりは続けられません。これから、若者世代が、まず自分自身と社会を深く知り、当事者意識を持って向き合いたい・チャレンジしたいと思う何かを見つければ、そんなキッカケとなる団体でありたいと思っています。

(令和5年度代表 新妻幹生執筆)



HPや各種SNSで発信している最新の活動情報を要チェック!

さまざまな文化に触れよう! 日立市文化少年団ご紹介 6

日立市文化少年団をご存じでしょうか?日立市では現在23の文化少年団がさまざまな分野で文化活動に取り組んでいます。どの団体も幼少期から多様な文化に触れ、日本の伝統文化や新しい生活文化を学ばせることを目的としています。また、次世代への文化の継承という意味でも文化少年団は大切な役割を担っています。毎月2団体ずつ、本誌面で紹介していきます。

おこと・尺八子供教室

子供教室に来るほとんどは、教室で初めてお箏に触れる子です。音を出すのもやっこの子が、練習を重ねることによって、百年も昔の曲から現代曲まで弾けるようになります。お箏という楽器で演奏することの楽しさをもっと沢山の方々に知って頂けたらと思います。

以下は一緒に練習している子の生の声の一部です。

「歌いながら先生とひくのが楽しいです」(四歳)

「お箏の音が好きで教室に入り、楽しいです」(六歳)

おこと・尺八子供教室の案内

活動日時 月1回 塙山教室 土曜日10:00~11:30
十王教室 日曜日10:30~12:00

活動場所 ①塙山交流センター ②十王交流センター
入団条件 (お箏) おおむね4歳から中学3年生まで
(尺八) 小学1年生以上

会費 1,000円/回 (爪、箏、尺八の貸し出しあり)
申し込み (お箏) 佐藤美知子 TEL・FAX 0294-34-6097
問合せ先 (尺八) 大山 一浩 TEL・FAX 0294-36-3456

「お箏は難しいけど、やってみたら楽しいです」(小一)
「みんなで色々な曲を演奏できているです」(小四)
「箏は私の自信になりました。大切な楽器です」(小六)
「昔からの楽器に触れられて、とても嬉しく思っています」(中一)
「弾ける曲やでできる技が増えて、楽しいです」(中二)
「難しいと思った曲や技ができた時、成長を感じられ、お箏を続ける楽しさがある」(高一・高二)



日立市少年少女合唱団

日立市少年少女合唱団は、昭和42年に設立され、今年57年目を迎えました。ジュニアクラス(小学生)とシニアクラス(中・高校生)があります。

練習は、土曜日に加え、夏と冬に行う集中練習があります。練習の間にはバーベキューをしたり、科学館を体験したり、上級生が下級生の面倒を見て、団員同士楽しく活動しています。

今年度は「日立市民音楽祭」や「茨城県少年少女合唱祭」、「ひたちこども芸術祭」等、年間を通してさまざまな音楽祭や発表会に出演する予定です。

毎年3月の第4週には、日立市民会館にて定期演奏会を開催し、一年間の活動の成果を発表します。子どもたちの美しい歌声をどうぞお楽しみください。

合唱団では団員を募集しています。歌が好き、歌がうまくなりたい、他の学校の友達と歌いたい、合唱団に入って一緒に歌ってみませんか?

日立市少年少女合唱団の案内

活動日時 土曜日 (年間30回程度)
ジュニアクラス 14:30~16:30 (下半期は13:30~)

シニアクラス 16:40~17:50

活動場所 中小路交流センター (日立市民会館3階)

入団条件 小学1年生から高校3年生まで

会費 3,000円/月 (ジュニアクラス:小学生)
2,500円/月 (シニアクラス:中学、高校生)

申し込み 日立市少年少女合唱団事務局

問合せ先 〒317-0063 日立市若葉町1-5-8 日立市民会館内

TEL 0294-22-6481 FAX 0294-22-6633

E-mail: hitachi-hall@civic.jp



105 日々を詠む

《選・評 櫻村 奎子》

駅前の子安地蔵に菜の花を
供ふる老の背生き生きと見ゆ

久保田 絹枝

地元の町の目鼻も朽ちた子安地蔵に、翁が菜の花を供えている。その背中を見つめる作者は九十五歳の元気な媼。地域の住民が子らをみながら見守る優しさを詠んだ「光の春」の一場面である。

(作者は日高短歌会会員)

My 仕事

万々に込めた和菓子と農家への想い

株式会社常陸風月堂
三代目店主
藤田 浩一さん
(十王町山部)

「花」「鳥」「風」「月」の四つの意匠があしらわれたのれんをくぐり店内に一步足を踏み入れると、和菓子の甘い香りが鼻の奥をくすぐってくる。取材班をにこやかに出迎えてくれた藤田さんは、老舗和菓子店の三代目店主とは思えないほどの若さだが、会う人の心をつかむ素敵な笑顔と整然とした経営理念をあわせ持つ魅力的な方であった。



飯沼栗をふんだんに使った逸品・万羊羹

と雑談をしていた時に、「孫の教育資金を出すのが難しく」という悩みを漏らされました。農家の仕事は自然を相手にするため苦労が絶えない。天候や市場の動向に左右されやすいので収入も非常に不安定です。特に栗農家は年に一度の収穫で一年間の生活費をやり繰りしなければいけません。そんな環境では子どもや孫に跡を継がせようとする農家さんは少ないと思います。質の高い栗を将来的に安定して得るためには農家さんが自分たちの生活を送れるように収入を得ることが大切で、そのためには私たちが商品の価値に見合った卸値で買い付けることが必要だと思えます。

———この羊羹は万羊羹と名付けましたが、そこには一本一万円すること、万葉集の中に栗と愛する人を詠んだ歌があること、羊羹の中に万に栗が散りばめられていることの三つの意味が込められています。名前の候補がいくつかがあったのですが、歴史的な意味合いも込められている点に気に入って「これだ」と選びました。

———万羊羹は店頭以外に市内の観光地などで販売しているほか、オンラインショップでも扱っています。特にオンラインショップは売上の半分を占めています。また海外にも日本の美味しい和菓子を広めたいと考え、台湾にも販路を拡大しています。ある程度の売り上げが作れるようになったら栗の仕入れ単価を引き上げて栗農家さんに還元したいと考えています。将来的には北米方面への販路拡大も視野に入れており、そのために今年の夏にニューヨークで開かれる展示会に足を運ぼうと計画中です。

風月堂の創業は一九四八年です。私の祖父が戦後内地に戻った時に、大子の菓子店で丁稚奉公をしていた経験を生かして和菓子屋を始めました。当時活気があつた常磐炭鉱の長屋の商店へ味噌饅頭や羊羹などの卸売りを中心に商売をしていました。時代が下るにつれて洋菓子なども取り扱うようになり、自店舗での販売も始めるようになりました。

——— ずっと職人でやってきたので、菓子を作ることはできて、経営に関することやマーケティングの勉強はしていませんでした。ビジネススクールの通っていた時に「お客様が求めている商品を創らなければいけない」という考え方を学びました。そんな時に飯沼栗という栗を知り合いから譲ってもらい食べてみて、この美味しかったので、これでお菓子を作りたいという

思いが湧き上がったのです。茨城には贈答用の高級な和菓子が無いという声を以前から聞いていたので、思い切って一本一万円の栗羊羹を作ることにしました。この価格設定に対して、周囲からは「一万円で売れるわけがない」という否定的な声も上がりましたが、原材料費や人件費を加味した上で勇気を出して決断しました。実際に売り始めてみるとお客様にも好評で、また高い値段設定をしたことで記憶にも残りやすくなり、話題にも多く上るようになりました。思い切つてこの値段にして良かったと思っています。

——— 強気の価格設定は、栗農家さんの立場を考えてのことでもあります。仕入先の方

——— 今後もお客様の「こういったお菓子を食いたい」という要望に応え、付加価値のある商品を作り続けていきたいです。自分が出会った食材を使ってお菓子を作り、それを皆さまにお届けすることでお客様に笑顔になつてもらえれば嬉しいです。

——— 県外で修行していた私が地元に戻り、三代目として跡を継いだのが二〇二〇年の

——— ずっと職人でやってきたので、菓子を作ることはできて、経営に関することやマーケティングの勉強はして

——— 強気の価格設定は、栗農家さんの立場を考えてのこと

——— 今後もお客様の「こういったお菓子を食いたい」という

——— 今後もお客様の「こういったお菓子を食いたい」という



三代目店主・藤田浩一さん

——— 県外で修行していた私が地元に戻り、三代目として跡を継いだのが二〇二〇年の

——— 強気の価格設定は、栗農家さんの立場を考えてのこと

——— 今後もお客様の「こういったお菓子を食いたい」という



お客様のニーズに沿って多彩な商品を取り揃える

ふるさと探訪パートⅡ- 86

探索「玉簾の滝」

會澤 隆司 (郷土史愛好家)



玉簾の滝

玉簾の滝は、高鈴山の北側に源を発する滝沢川が里川に合流するところ、安産の観音様として知られている東河内町の瀑布山玉簾寺の境内にある。滝の規模は、高さは約十八m、幅が約八mで箱庭のような風情がある。

滝の名称は、水戸藩二代藩主徳川光圀が、天和三年(一六八三)七月にこの地を訪れ、滝水

の流れる様子がたまらずだれに似ているところから「玉簾の滝」と命名したと云われている。

この滝を眺めるために、水戸藩主や文人墨客が来遊し、文芸作品などを残している。

以下、玉簾の滝を詠んだ漢詩・和歌・俳句などを紹介しよう。

玉簾瀑 徳川光圀

飛泉倒断崖 乱沫散微糸

白布懸空瀑 玉簾穿岳垂

雷聲轟地軸 雲額拱山眉

千歳徐凝後 為吾洗悪詩

玉簾寺 加倉井砂山(儒者)

山水極幽邃 此來稱妙遊

偶然坐良久 淨理箇裏求

次韻 周甫(玉簾寺任職)

山上瀑泉幽 逍遙二客遊

我宗無一物 更興喫茶求

安藤朴翁(国学者)

いさぎよくおち瀧つせの

玉たれを

まきあけ出る水のしらなみ

雨宮端亭(水戸藩士)

山姫のくるや千筋の糸なかく

つらめきこめめ玉簾の滝

丹就道(水戸藩士)

天津かる見ぬ世をかけて

とく法に

声打ちそふる玉たれの瀧

徳川斉昭(水戸藩九代藩主)

木の間より落ちくる瀧の

玉すだれ

かゝる錦もきてこそは見れ

紅葉せし木の間の瀧の玉すだれ

落つる錦をきてこそまされ

大窪光謙(医師)

かねて聞まが玉だれの

滝つべは

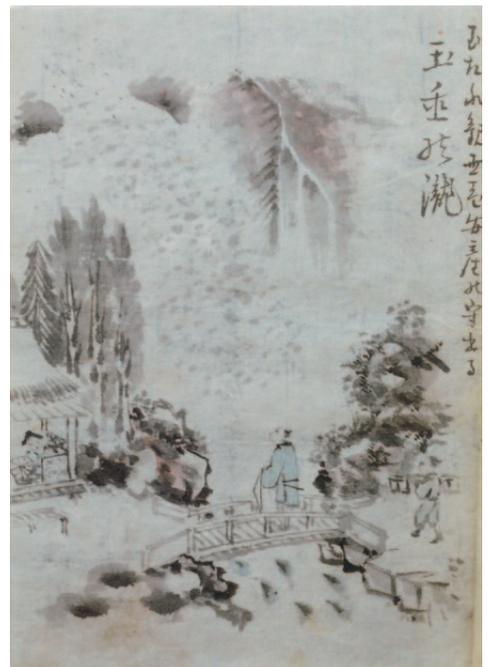
玉もゆらゝの音のするかも

篠原香山(画家)

落ちて来る水にはあらうて

滝の面は

みなしく玉のちるかじり見る



「みちのく小記」篠原 香山
安政二年(1855年)

曾聞此地有飛泉

未見觀音高閣辺

最怪九霄限漢水

化成白玉散堂前

朝比奈泰吉(水戸藩士)

又やみん干尋を落ちて岩間より

砕ける波の玉たれの瀧

大那おちすくな彦那の神わざの

うつつに残ることのかしこさ

すがはらの女むすめ

(山野辺夫人御付の女性)

一筋にたのみそかるく玉たれの

佛の御手の滝のしら糸

草木にも花咲法のちがいに

もらし給うな君か行く末

つぎ名をは立こそとはし

わけまよつ

野山の露と消はつるかな

幻窓湖中(水戸藩士)

夏ありて僧も住むやら玉簾寺

馬の子はかほゆきものよ

けしの花

この他に、藤田東湖・成田鶴齊・牟田高悖らが紀行文を残している。また、松尾芭蕉の「松風の於ち葉加水能音寿、し」の句碑や、地元俳人たちの連名句碑「田毎碑」が建立されている。

玉簾の滝は、里川の渓谷と山村景観とを一体化して鑑賞するとその趣と、そして、文人たちの思いにふれることができることでもめる。

デザインとの出会い

— 後藤 弘文 —

③ ポスターデザイン

元日立市立豊浦小学校校長。市内の小中学校で美術科を教える傍ら、自らもアーティストとして作品制作に取り組む。茨城県近代美術館を始め展覧会等文化行政に従事。日立市美術展覧会を始め多数の展覧会に出展。

笠間芸術の森公園内に建つ茨城県陶芸美術館のエンターテインメントの壁には、開館当時から展覧会ポスターが一堂に飾られています。その数60、とても圧巻です。



茨城県陶芸美術館ポスター

この美術館は、益子と並ぶ窯業地笠間に東日本で初の陶芸を専門に扱う美術館として平成12年に開館しました。私は平成16年の春から、6

年間勤務することになり、国内の陶芸作家や美術館との連携を図りながら、展覧会開催やコレクションの収集等に従事し、微力ながら陶芸の発展に寄与できたことを今でも誇りに感じています。

中でも印象に残ることは、私と同じ年に就任された館長竹内順一氏と共に館として展開した戦略的な広報活動です。特に年4回開催する展覧会を周知するためのポスター制作においては、デザイナー任せにすることなく、全職員が組織的に取り組んだことです。担当の企画案のプレゼンから、その意図をくみ、各人がキャッチコピー20案をA4版用紙に提案。卓上に並べ、約百案を種別に分類し、消去法で数を減らしながら最後に残った数案から厳選しポスターに

採用する手法です。1時間を要するこの協働作業により、展覧会に対する意識の共有と共に愛情が育まれました。ポスターの語源はPOST

(柱)にER(貼る)ものということです。印刷技術の発達により、19世紀の中ごろのフランスで広告宣伝を目的にデザインし、大判の紙に印刷。それを柱や壁に掲示したポスターの歴史が始まります。ポスターを構成する3要素(文字・画像・レイアウト)が十分に練り上げられることで、初めて不特定多数の人の目に留まる視覚的な宣伝力があるポスターが完成します。



出典：ウィキペディア

レイアウトによる広告戦略は的中し大評判となりました。とりととした甘みのある日本人の嗜好にあつたワインは、サントリーの土台を築き上げた商品となり、今でも発売され続けています。

日本において、民衆の度肝を抜かしたポスターがありま

す。それは、サントリーの創業者・鳥居信治郎が日本初のぶどう酒「赤玉ポートワイン」を開発し、その販路を広げるため大正11年(1922)に制作した宣伝ポスターです。広告界の天才・片岡敏郎の日本初のヌード写真を利用した無彩色の背景に赤いワインへ視線を引き付ける計算され

にした日立風流物への感動をテーマに、約40年前に制作したポスター作品があります。笛や太鼓などの鳴り物に合わせ、山車の上で演じられるから



「日立風流物・詩」1985年茨城県美術展覧会

がら、時代を超えた民衆の風流物に込めた祈りや思いを「無名だから、すてき」のキャッチコピーに込めました。ポスターの三要素を苦心したこともあり、今でも思い出深い作品のひとつとなっています。

デジタルサイネージ(電子看板)として形を変え、変化するペーパーレス社会においても、生活空間を彩るポスターデザインは今後も生き続けると信じています。

参考文献：『飲料業界のパイオニア・スプリット』生島淳 2009年 芙蓉書房出版

北茨城市の大津港で、本物の漁船（神船）に神輿を載せて渡御し、神を海水で清める「御船祭」が催される。この祭りは港の北側の「唐帰山」に鎮座する式内社「佐波波地祇神社」の祭り、国指定無形民俗文化財に登録されており、五年に一度開催される。



佐波波地祇神社（大津町）

「御船祭」といっので、神輿を乗せ、旗や幟で飾り立てた神船が何艘もの漁船を従えて、漁港や外海を走りまわる光景を思い浮かべて大津港まで来たが、なんと、船は町中を滑って行く。近くの役員らしい人に「なんで船が陸上を走るのか」と尋ねると、「昔はもちろん海上で祭りをしていたそつだが、その海がだんだん埋め立てられて今の地形になった。船を昔通りの場所まで走らせようとしたら陸の上になってしまった」と笑って教えてくれた。（冗談だったかもしれないが・・・）

神が乗る神輿と神官、お隣子など四十人ほどを乗せた神船は、三百人ほどの引き手に曳かれて町中を練り歩く。道路にソロバンと呼ぶ、木を井桁状に組んだ台を敷いて、この上で船を滑らせる。滑るとききの摩擦はものすごく、木の焼けるにおいと煙が凄まじい。摩擦を少しでも和らげようとするのが、引き手は船の両舷に張り付き、船を左右に揺さぶ



上：渡御中の神船（北茨城市HPより）



左：ソロバン（この上で神船を引っ張る）

り続ける。この人たちやソロバンを入れたり外したりする人たちは、一歩間違つと船に弾き飛ばされたり、下敷きになってしまつので命懸けだ。なんとも勇壮なお祭りだ。さて、「佐波波地祇神社」とは聞きなれない名前の神社だ。まず「地祇」だが、これは天照大御神系の神・「天神」に対する太古からの地元の神・「国神」のことだ。祭神の天日方奇日方命、大己貴命、事代主命はいずれも天照大御神系の神々より以前からこの国を開拓してきた神様だ。

この神社に行つて見ると、扁額には「佐波神社」と書かれていた。三代実録に出てくる「佐波神」を祭る「佐波神社」だ。大津町にある「佐波波地祇神社」は元々この地にあつたのだろう。地名の「澤山」から「佐波神」「佐波神社」「佐波波地祇神社」と連想が膨らむが、正解はわからない。なんとも面白い神社の面白い祭りだ。



佐波波地祇神社の扁額（左：大津町、右：華川町）



しかし、宮本元球は『常陸国郡郷考』に、地名から名づけられたと考えるのが妥当だと書いている。「佐波波地祇神社」は、いま小津田村（現在は北茨城市華川町上小津田、大津港から西方六〜七キロメートル離れた山里）にあり、旧澤山の西嶺にある」としている。

常陸国
まつり歩き
ながえ よしはる
長江 慶治

お ふね まつり
【終】御船祭

茨城県内にはユニークな祭りが数多存在する。
そうしたお祭りを多数渡り歩き、造詣の深い長江慶治氏にその中からいくつかを本誌面でご紹介いただく。

（公財）日立市民科学文化財団の催しご案内

映画「祈りー幻に長崎を想う刻ー」

日時 **5月26日（日）**
午前10時／午後2時15分開演

会場 **日立市民会館ホール**

料金 **全席自由 1,000円**

問合せ **日立市民会館 0294-22-6481**

映画「ある町の高い煙突」の松村克弥が監督をつとめます

第31回ひたちBigBandフェスティバル2024

日時 **5月12日（日）午後1時開演**

会場 **日立市民会館ホール**

料金 **全席指定 500円**

問合せ **日立市民会館 0294-22-6481**

県内の高校生、社会人のアマチュアビッグバンドによるコンサート

ひたち国際大道芸2024

会場・日時

5月11日（土）12:00～19:30
日立会場：JR日立駅前（日立シビックセンター周辺）

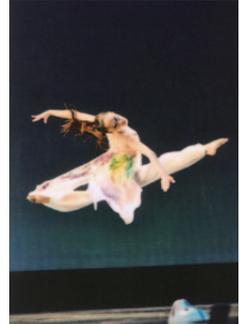
5月12日（日）11:00～17:00
多賀会場：JR常陸多賀駅前（よかつぱ通り周辺）

日立のまちに、最強パフォーマーたちが大集結！

過去のようなす

クラシックバレエの世界へ①

バレエってなんだか敷居が高そう……そう感じている人はいませんか。日立市洋舞踊協会に加盟する会員の皆様がクラシックバレエの魅力を連載でわかりやすくお伝えしていきます。あなたもクラシックバレエの世界を覗いてみませんか？



日立市洋舞踊協会所属 小林典子 モダンバレエ研究所



日立市洋舞踊協会所属 レイコバレエスクール



日立市洋舞踊協会所属 ヨーコバレエアカデミー

クラシックバレエは十四〜十六世紀のルネサンス期にイタリアで生まれました。古典のクラシックバレエ、現代舞踊モダンバレエ、ジャズダンス、昨今ではコンテンポラリーダンスと沢山の種類のダンスが知られています。また、今は義務教育のカリキュラムの一環としてダンスに触れる機会が増えてきており、より多くの人に知られるようになってきました。

有名な演目としてはチャイコフスキー作曲の作品で、最高傑作とされる三大バレエ作品「白鳥の湖」「眠れる森の美女」「くるみ割り人形」が、多くのバレエファンに愛され続けてきています。

バレーの音楽、振付、衣装には作品によって全部規定がござ



日立市洋舞踊協会合同発表会のようす

いますが、現代舞踊モダンバレエ、ジャズダンス、コンテンポラリーなどの作品ではそれらを自由に作り上げていくことができます。

それぞれのジャンルの違いはありますが、作品には個々の内なる思いが込められています。それを身体で伝えることで、バレエという芸術文化は人の心を豊かにし、人々の心と心をつなげる力となるのではないのでしょうか。

今年の十二月十四日にキーウ・クラシック・バレエ団が来日し、日立市民会館で上演することが決定しました。前述の「くるみ

割り人形」を全幕でお届けします。公演詳細につきましては現在調整中で、決まり次第チラシやホームページ等でご案内いたします。ウクライナが誇る、世界を魅了し続けるバレエ団の世界最高峰の躍動を劇場で鑑賞してみませんか。

私たちの文化のバックナンバー

財団HPにて好評掲載中!



(<http://www.civic.jp/hitachi/magazine>)

編集後記

■この時期の関心事と言えば桜の開花時期だろう。特に桜の名所で屋外イベントを企画している団体は開花日予想に一喜一憂しているに違いない◆テレビの気象コーナーで二月一日以降の日々の最高気温を足してゆき、合計が六百℃を超える日に桜は開花する」という解説を目にした。動物や昆虫と同様、いやそれ以上に植物の生態は不思議と驚きに満ちている■どのくらい信憑性があるものなのかとふと興味が湧き、日立市の日々の最高気温の記録を自分でつけている。ちなみにこれを書いている三月十三日時点の合計値は四百七十七℃である◆はてさて実際には今年の桜はいつ開花するのだろうか。今から楽しみである。(A)

「常陸国まつり歩き」は今年で終わります。長江慶治さん、ありがとうございました。

表紙の写真



毎年4月上旬に実施されるひたちさくらロードレース。コロナ禍でやむなく中止した年もあったが今年は無事に開催されそう。待ち望んでいた市内外のランナーも多いことだろう。

筆者も昔エントリーしたことがある。普段徒歩で立ち入ることのできない海上バイパスの高架を風を切って駆け抜けるのは中々に爽快だった。

写真は東町在住の森脇道夫さんによるふるさと日立カレンダー応募作品からのご提供。森脇さん、ありがとうございました。

発行 公益財団法人日立市民科学文化財団 「私たちの文化」編集委員会

〒317-0063 日立市若葉町1-5-8 日立市民会館内
TEL 0294-22-6481 FAX 0294-22-6633
HPアドレス <http://www.civic.jp>

※ご意見・ご感想をお寄せください。

